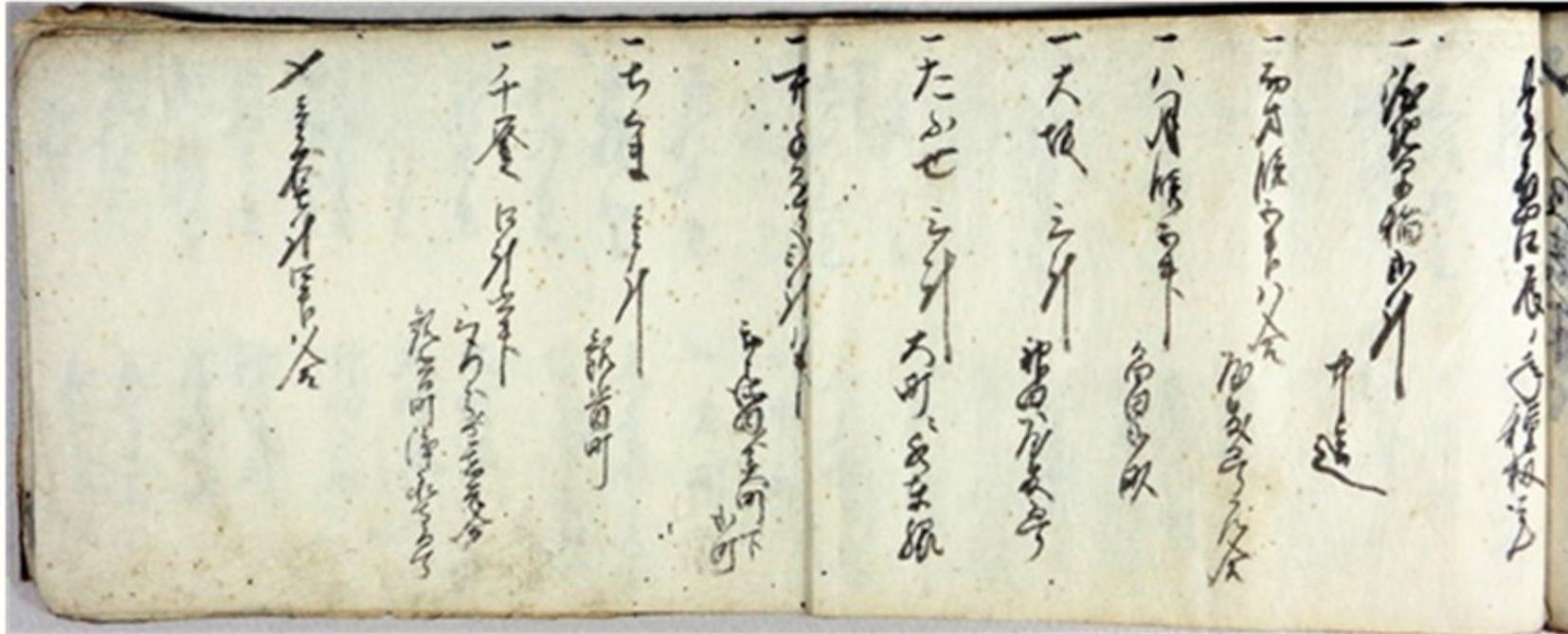


【1】種粃記其外



慶応四辰ノ年種粃覚

一徳地早稲式斗 中道

一西方餅五升八合 屋敷廻り見合

一八月餅五升 畠田式畝

一大坂三斗 神田ニ屋敷廻り

一たふせ三斗 大町ニ水車脇

一井手懸り式斗八升 勘兵衛田方大町下

式町

一ちくま壹斗 観音町

一千登四斗六升 三右衛門分方甚吉分

観音町浄泉寺廻り

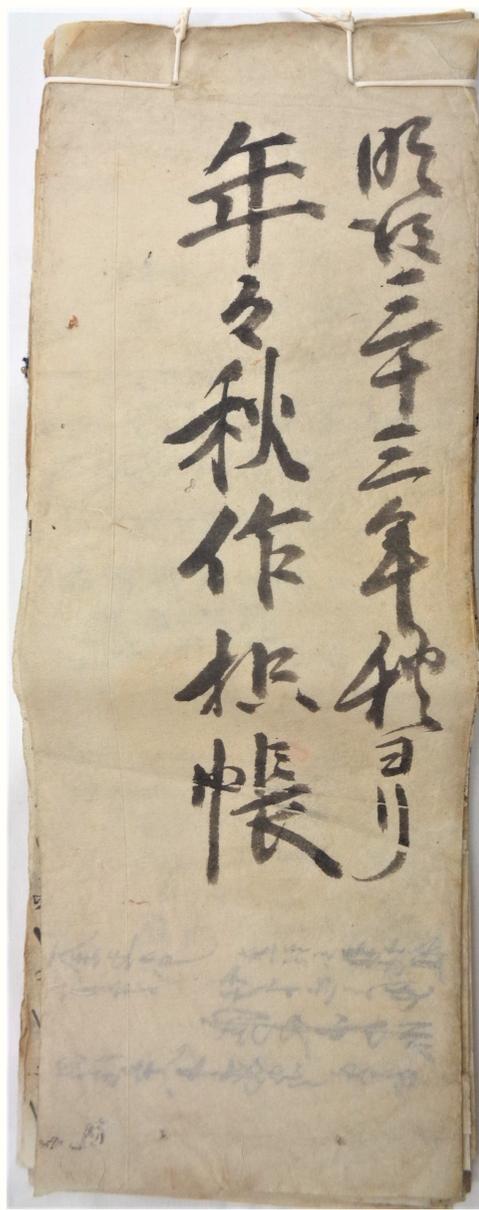
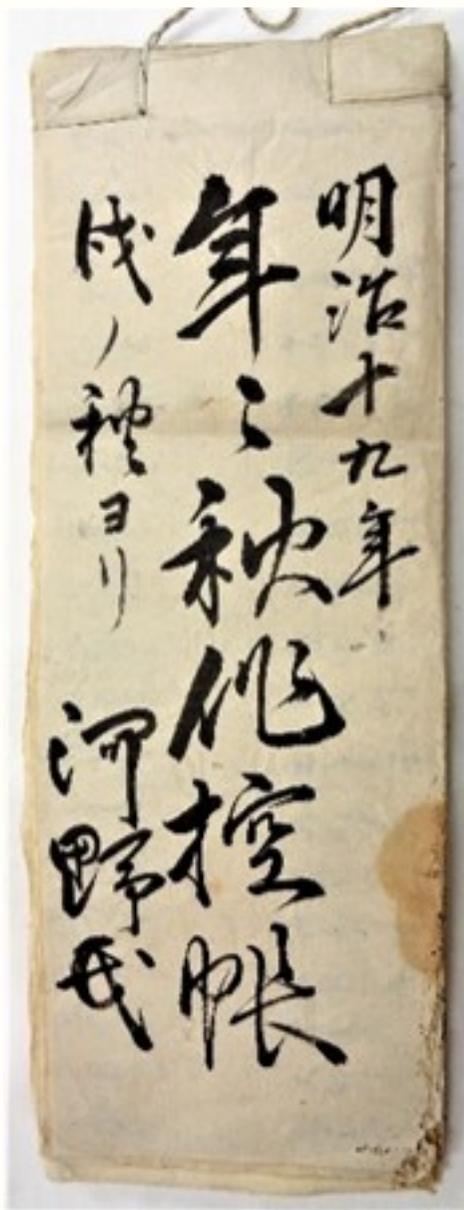
一壹石七斗四升八合

河野家文書(山口市)97「種粃記其外」

嘉永5年(1852)～明治18年(1885)の間、その年に作付けした種粃を記している。また秋の収穫の記載もある。

当該資料は表紙を欠くが、【2】に載せた「年々秋作控帳」と記載内容は同じ。

【2】年々秋作控帳

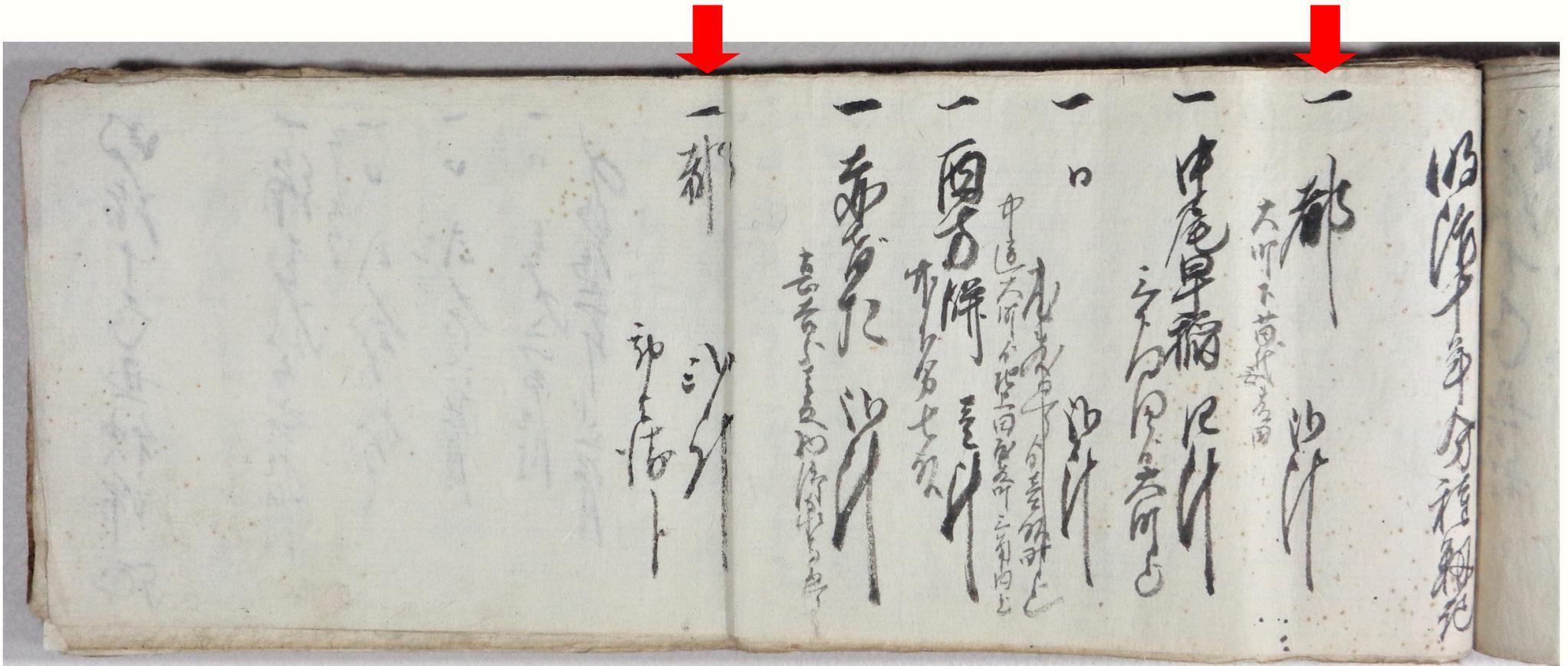


河野家文書(山口市)98「年々秋作控帳」(左)と
同99「年々秋作控帳」

左は明治20年(1887)～同27年(1894)、右は
明治33年(1900)～同39年(1906)の種籾の記載
がある。

なお、左の資料は明治19年の収穫から記載が
始まっている。そのため、同年の作付けした稲
の品種を知ることができる。

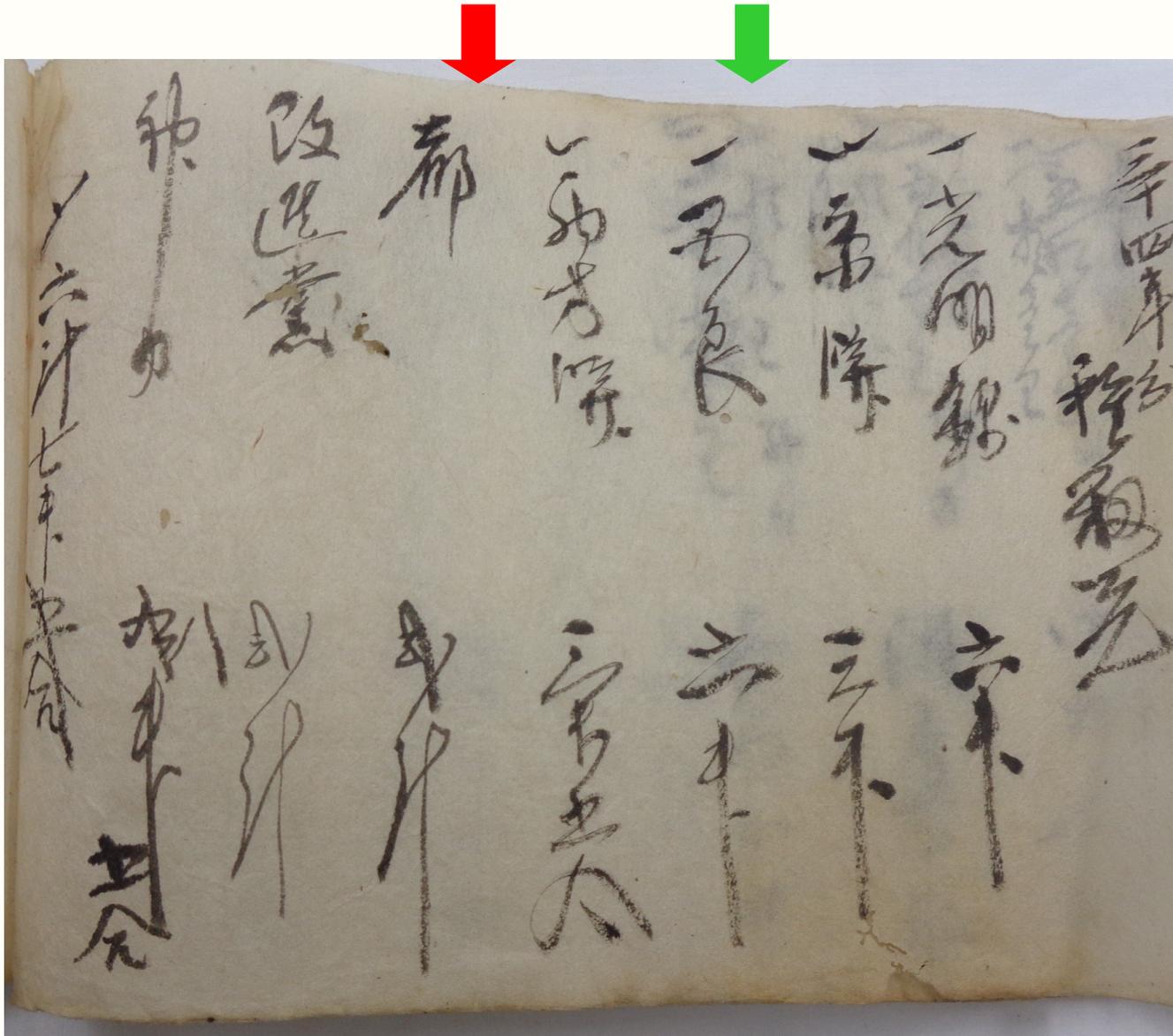
【3】都の作付け



都の作付け（「種籾記其外」河野家97）

河野家では、明治10年(1877)に初めて、都を作付けした。

【4】 穀良都の作付け



穀良都の登場

明治34年(1901)の種籾覚(「年々秋作控帳」河野家99)。

国良と記しているが、穀良のつもりであろう。穀良都と光明錦は、小鯖の伊藤音市が開発したものの。